

できごと

令和元年11月18日(月)、静岡県コンベンションアーツセンターグランシップを会場に「第27回静岡県図書館大会」が開催されました。

午前中には「ソーシャル・イノベーションを巻き起こす図書館へ」というテーマでの対談が行われ、午後は6つの分科会が開催されました。そのうちの学校図書館を主題にした第5分科会では「やってみよう！ブックトーク～授業に使える司書教諭・学校司書の技～」というテーマで、東京学芸大学講師、武蔵野大学講師の石橋幸子先生の講演とワークショップが行われました。詳しい内容は2ページ目で紹介していますのでご覧ください。



「子ども図書研究室講師派遣事業」ご参加ありがとうございました

今年度も、県内市町立図書館や読書関連団体のの方々を対象とした「子ども図書研究室講師派遣事業」を実施させていただきました。今年は9団体を対象に研修を行い、どの会場でも多くの質問が上がるなど、熱心に受講していただきました。

2019年度実施状況

読み聞かせ入門	3団体
子ども図書研究室案内と活用方法案内	1団体
小学校低学年から中学年への読書案内	1団体
小学校高学年から中学生への読書案内	3団体
ブックトーク入門	1団体

来年度も上記テーマで引き続き事業を実施する予定です。当館にとっても様々な団体の方と直接情報交換ができる貴重な機会となります。御応募お待ちしております。

全国SLA主催 2020年度学校司書研修講座

学校図書館法改正により学校司書が法的に確立され、配置の努力義務が課せられました。各地で学校司書や学校図書館スタッフが配置されるようになってきましたが、研修機会の不足が指摘されています。

そのため全国SLAは教育学や発達心理学、図書館情報学、学校図書館学等の基礎を学ぶ研修を学校司書として勤務している方に向け開催します。

■概要■

- ・「学校司書のモデルカリキュラム」に準じて領域や講座を設定しています
- ・2020年4月～2021年2月の間で、全7領域42講座を開講します(1領域全6講座の出席を原則)
- ・全7領域(42講座)を受講された方には修了証を交付。既に受講された領域がある場合は、未受講の領域を受講していただいた後、修了証の交付となります

■対象■

学校司書または同様の業務をしている方、学校図書館ボランティア、司書教諭、学校図書館支援センター担当者、教育委員会学校図書館担当者、公共図書館職員、学校図書館関係企業の担当者等

■定員■

各領域40名(領域ごとの申込みが必要)

■会場■

学校図書館センター4階会議室

〒112-0003 東京都文京区春日2-2-7

■問合せ■

全国学校図書館協議会 研究調査部学校司書研修講座係

TEL: 03-3814-4317

FAX: 03-5804-7546

kenkyu@j-sla.or.jp

詳しくは全国SLAのホームページをご覧ください。



静岡県図書館大会 第5分科会 学校図書館報告

講師の石橋幸子氏は長年小学校教諭として勤められ、誰でも学校図書館を使って授業ができる事を目指して司書教諭としてブックトークをしたり学習年鑑の使い方を伝えたりされてきました。学校でのブックトークの様子や学校ならではの工夫について、お話しいただきました。

ブックトークの魅力はたくさんあるが、様々な本を紹介するため、児童生徒・教員双方の多様なニーズに一度に答えられることもその一つ。学習のねらい、発達段階や読書力の差、普段読まないような様々なジャンル、新刊から読み継がれている本、本だけでなくDVDや動画など学校図書館のあらゆる資料の紹介などを心がけている。学校図書館としての魅力は、ブックトークから様々な学習活動への発展が可能なこと。他にもたくさんあるが、一番はやって楽しい、聞いて楽しいこと。聞いた子どもたちが読んでみたいと言ってくれるととても嬉しい。



学校図書館でのブックトークは授業ですることがほとんど。ブックトークを聞いた子どもたちから感想をもらうが、「本はきれいだけどつい読みたくなった」「いろいろな本を読むきっかけになった」「いつもおもしろくて、今日はブックトークと先生が言うときはうれしかった」など感想をもらった。ただ、本の紹介をして「面白かった」で終わるのではなく、実際にどれだけの子どもが読んでいるのか、読んで感じたことを表現できているのかまで考える必要がある。さらに、授業の一環なので様々な言語活動への展開が望ましい。読む→考える・書く→伝える→さらに読むの流れを作りたい。また、学校なら「一緒に読もう」と共読みにも繋げやすい。そこから深い学びも得られる。

子どもたちに紹介した本を読んでもらうには、ブックトーク後の学習が重要。必ず複本を準備したり、紹介した本を一定期間教室に置いて子どもたちが読む時間を確保したりする。ブックトーク直後に5～10分読む時間を設ける「味見読書」も有効。学校司書、司書教諭ならば、感想や読み終わった日付を書き込めるようなブックトークワークシートを作って読ませる工夫もできる。ブックトークで読書会の課題図書を紹介し、子どもたちはそれを聞いて読む本を選び、後日読書会を開く活動もしている。

授業でのブックトーク活用例として、5つの例を資料に付けていただきました。その中で、小学校4年生を対象に国語の授業で行ったブックトークを実演していただきました。紹介されたテーマと本は以下のとおりです。

テーマ「へえー！なるほど！をどうぞ ホネの不思議」

『ヒトの親指はエライ！』	講談社
『動物ふしぎ発見 パンダの手には、かくされたひみつがあった！』	くもん出版
『モグラのもんだいモグラのもんく』	小峰書店
『なるほど動物形態学 クジラも海でおぼれるの？』	偕成社
『ホネホネたんけんたい』	アリス館
『フリズル先生のマジック・スクールバス 恐竜さがし』	岩波書店

講演会では参加者が各自持ち寄った1冊の本を紹介しあい、その本を使ってどのようなブックトークを作れるかを考える時間も持たれました。「最初はうまくいなくても、まずはやってみること。ブックトークをしていくなかで、本を選ぶ力もついてくる」という石橋氏の言葉で、参加者はブックトークをやってみよう！という楽しみな気持ちになったようです。

当日配付された資料は当館WEBサイト「静岡県図書館大会」のページで公開しています。また、「静岡県図書館協会会報 no.74」にて図書館大会の概要を掲載しています。(眞子)



子どもの本に関する賞

この1年の間に発表された子どもの本に関する受賞作をご紹介します。大賞メインのご紹介となりますが、主催団体の公式発表では、次点となった作品や、別の部門の受賞作品が掲載されている賞もあります。大賞以外の賞を知ること、また新たな発見があるのではないのでしょうか。

紹介する賞のうち、ニューベリー賞は1922年から、カーネギー賞は1936年からと長く続く賞もあります。これらの賞の過去の受賞作を見ると、現在もお子どもに愛され、読み継がれている作品も多く見られます。過去の受賞作は、主催団体のウェブサイトの他、『児童の賞の事典』(日外アソシエーツ刊 2009年)や『海外文学賞事典』(日外アソシエーツ刊 2016年)などで確認することができます。



種 類	2019年 受 賞 作 品
コ ー ル デ コ ッ ト 賞	『Hello, Lighthouse』 Sophie Blackall/作 Little, Brown 邦訳『おーい、こちら灯台』 山口 文生/やく 評論社
ニ ュ ー ベ リ ー 賞	『Merci Suárez changes gears』 Meg Medina/著 Candlewick Press 邦訳『スアレス一家は、今日もにぎやか』 橋本 恵/訳 あすなろ書房
ケイト・グリーンウェイ賞	『The lost words a spell book』 Robert Macfarlane/文 Jackie Morris/絵 H. Hamilton 未邦訳
カ ー ネ ギ ー 賞	『The poet X』 Elizabeth Acevedo/著 HarperTeen 未邦訳
日 本 絵 本 賞	大 賞:『もぐらはすごい』 アヤ井アキコ/作、川田伸一郎/監修 アリス館 絵本賞:『大根はエライ』 久住 昌之/文・絵 福音館書店 『ためきの花よめ道中』 最上 一平/作 町田 尚子/絵 岩崎書店 翻訳絵本賞・読者賞:『あめだま』 ペク ヒナ/作 長谷川 義史/訳 ブロンズ新社
坪 田 譲 治 文 学 賞	『ペンギンは空を見上げる』 八重野 統摩/著 東京創元社
講談社出版文化賞・絵本賞	『つくえはつくえ』 五味 太郎/[作] 偕成社
産 経 児 童 出 版 文 化 賞	『それでも「ふるさと」』(全3巻) 豊田 直巳/写真・文 農山漁村文化協会
日本児童文学者協会賞	『むこう岸』 安田 夏菜/著 講談社
日本児童文学者協会新人賞	『ピアノをきかせて』 小俣 麦穂/著 講談社 『あさって町のフミオくん』 昼田 弥子/作 高島 那生/絵 ブロンズ新社
三 越 左 千 夫 少 年 詩 賞	『たとえば一人のランナーが』 半田 信和/著 竹林館
日本児童文芸家協会賞	『マレスケの虹 Sunnyside Books』 森川 成美/作 小峰書店
児 童 文 芸 新 人 賞	『わたしの空と五・七・五』 森埜 こみち/作 山田 和明/絵 講談社
児童文芸ノフィクション文学賞	『しあわせの牛乳』 佐藤 慧/著 安田 菜津紀/写真 ポプラ社
小学館児童出版文化賞	『ある晴れた夏の朝』 小手鞠 るい/著 偕成社 『くろいの』 田中 清代/さく 偕成社 『わたしというんなねこ』 おくはら ゆめ/作絵 あかね書房
ひ ろ す け 童 話 賞	『ふでばこから空』 北川 チハル/作 よしざわ けいこ/絵 文研出版
五 山 賞	『ころんこつつんこ』 こが ようこ/脚本 和歌山 静子/絵 童心社
小 川 未 明 文 学 賞	『湊町の寅吉』 藤村 沙希/作 Minoru/絵 学研プラス
野 間 児 童 文 芸 賞	『ゆかいな床井くん』 戸森 しるこ/著 講談社
けんぶち絵本の里大賞	『おしっこちよっぴりもれたろう』 ヨシタケ シンスケ/作・絵 PHP 研究所
日産童話と絵本のグランプリ	童話:『くじらすくい』水尻 紅美子/作 たなか やすひろ/絵 BL 出版
静岡書店大賞児童書・新作部門	『ころべばいいのに』 ヨシタケ シンスケ/作 ブロンズ新社
静岡書店大賞児童書・名作部門	『わたしのワンピース』 にしまき かやこ/えとぶん こぐま社

新着資料から

絵本



『ふしぎないきものツノゼミ』

丸山 宗利／写真・文
小松 貴／写真・文
知久 寿焼／写真・文

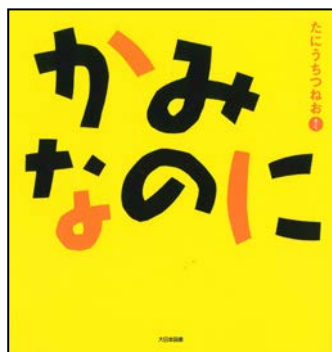
あかね書房 2019年7月

セミといいながらセミでなく、不思議なかたちで見る者を取りこにするツノゼミ。本を読んでいくと、身を守るために虫や植物に似せていたり、毒があることを示したりしていることが分かる。けれども、まったく形の目的がわかっていない種もまだまだたくさんいる。

本文中の字は小さいが、高画質な写真とツノゼミの形の奇妙さは子どもの目を引く。不思議な形の意味を自分で探してみるのも面白いかもしれない。

【小学校低学年から】(水井)

絵本



『かみなのに』

たにうち つねお／さく

大日本図書

2019年7月

紙は跳ねる？紙は伸びる？紙は怖い？ほんとかかな？じゃあ、やってみよう。紙を使った楽しい科学絵本。

紙を丸める、ちぎる、折るといった簡単な要素だけで結果が出せるので小さな子でも試すことができる。紙に持つイメージを変える楽しい実験。結果は切り紙の動物たちと一緒にめくって確認するのも嬉しい。絵本と同じ実験以外にもいろいろなことがしたくなる。

作者は「紙の彫刻家」など本書以外にも紙をテーマにした絵本を出版している。

【4～5歳から】(青山)

絵本



『ナイチンゲール』

アンデルセン／作
カントン・グレバン／絵
松井 るり子／再話

岩波書店
2019年8月

昔、夜うぐいすとも呼ばれる鳥が中国の広大な庭にいた。旅人たちの本で初めて鳥を知った皇帝は、連れて来させその歌声に涙を流すが、御殿に置き自由を奪う。ある日、日本からまばゆい宝石の付いたぜんまい仕掛けの鳥が贈られ、もてはやし競わせるうち鳥は森へ帰って行く。やがて重い病の皇帝が壊れた作り物に歌を求めたとき、ナイチンゲールが来てやさしく歌い、ある約束をする。

柔らかな色の絵と平易な文が穏やかな、アンデルセン作の再話。

【高学年から】(宮崎)

絵本



『なんに
かわるかな?』

パット・
ハッチンス／作

ほるぷ出版
2019年9月

いろいろな色と形の積み木が26個。2人の人形が積み木で家を作ったら火事になっちゃった！あわてて家を消防車にして火を消すと、水があふれたので今度は船を作って……。

鮮やかな色使いが楽しい字の無い絵本。人形の表情も助けになり、絵を見ているだけでストーリーが生まれる。同じ積み木がいろいろなものになり、次は何になるのかを想像する。『ロージーのおさんぽ』等で有名な英作家の作。1975年初版発行、今回新版が発行された。巻末に広松由希子氏の解説あり。

【幼児から】(眞子)